

令和6年度  
上八万小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の定着
- ②思考力・判断力・表現力を伸ばすための言語活動の充実
- ③児童の主体的な学びを確かなものにするための、授業展開の工夫や指導の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上 推進員委員	委員	
	特別援学級主任	教務主任
	1 学年主任	2 学年主任
	3 学年主任	4 学年主任
	5 学年主任	6 学年主任

校長

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の 把握について】

評価カードを用いた教員の自己評価や、管理職による授業参観など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○年度末の児童アンケートでは、「学校で勉強していることがよくわかる。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、93%だった。前年度の96%に続き高い水準で推移している。</p> <p>●前年度、「四則計算の確認テストで正答率9割以上の児童」は、達成率は上学年が79%、下学年が80%だった。上学年が80%以上、下学年が85%をめざすという目標には届かなかった。</p> <p>「漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童」は、達成率は上学年が82%、下学年が74%だった。上学年が80%以上、下学年が85%をめざすという目標には届かなかった。</p> <p>●年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができています。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、73%だった。前年度の75%に続き、伸び悩んでいる。</p>	<p>○四則計算の確認テストで、正答率が9割以上の児童を、上学年は80%以上、下学年は83%以上にする。</p> <p>○漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童を上学年は85%以上、下学年は80%以上にする。</p> <p>○進んで読書に取り組むことのできる児童の割合を75%以上にする。</p>	<p>○朝の活動の時間に、曜日を決めて、漢字・計算のドリル学習や小テストを行い、おぼえられない漢字の確認やポイントをしばった練習をさせたり、まちがった計算を根気強く繰り返し練習させたりする。</p> <p>○漢字を学習する際には、とめ・はね・はらいを意識し、丁寧に書くよう指導する。</p> <p>○各学級が毎週1回、図書室に行き、全員が図書室の本を借りることができるようにする。朝の学習時間を利用して、読書活動に取り組む。</p>	<p>○現在学習している漢字だけでなく、1学期やそれまでの学年で学習した漢字も宿題に出す。</p> <p>○図書室へ行く時間を固定し、必ず本を借りられるようにする。</p>	<p>○年度末の児童アンケートでは、「学校で勉強していることがよくわかる。」の質問に肯定的な回答をした児童の割合が、92.4%だった。前年度の93%に続き高い水準で推移している。また、年度末の保護者アンケート「教職員は、わかりやすい授業をしている。」の質問に肯定的な回答をした保護者の割合が、91.6%だった。前年度の94.7%に続き高い水準で推移している。</p> <p>○「四則計算の確認テストで正答率9割以上の児童」の達成率は上学年が79.2%、下学年が85.2%だった。上学年が80%以上ではほぼ達成し、下学年も85%をめざすという目標が達成できた。</p> <p>○「漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童」は、達成率は上学年が88.3%、下学年が54.7%だった。上学年が80%以上を達成したが、下学年が85%をめざすという目標には届かなかった。</p> <p>○年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができています」の質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、78.7%で前年度の73.5%を上回り、目標の75%を達成できた。</p>	<p>○継続して取り組んでいくと共に、前学年の内容の復習も組み込んでいく。</p> <p>○惜陰タイムの活用の仕方を、さらに工夫する。</p> <p>○漢字学習や小テストの時間を確保したり、宿題の出し方を工夫したりして、漢字の習得ができるようにする。</p> <p>○週1回は図書室へ行くようにする。</p> <p>○並行読書ができるよう、環境を計画的に整える。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○自分の考えを理由づけながら発表できる児童が増えてきている。</p> <p>●意欲はあるものの、話を正しく最後まで聞き取ることができない児童が見られる。</p> <p>●主語や述語をとらえて、意味・意図を正しく読み取ることができない児童がいる。</p> <p>●昨年度末の児童アンケートでは、「自分の意見や考えを進んで発表することができています。」の質問に、「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、71%だった。前年度の75%と比べ、やや下降している。</p>	<p>○友達の発表や教師の言葉を、最後まで落ち着いて、正しく聞き取ることができる。</p> <p>○学年に応じた読解力を身に付け、教科書の文や問題文の内容・意図を正しく読み取ることができる。</p> <p>○相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら、場に応じた適切な言葉遣いで、進んで自分の考えを話すことができる。</p>	<p>○聞き方名人・話し方名人の掲示や「発表ナビ」「声のものさし」「声のダイヤル」等を活用し、聞き方・話し方を常時意識づける。</p> <p>○新聞等を活用し、大事なところに線を引かせ、要約する力を身に付けさせる。</p> <p>○ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、自分の考えを話す時間や機会を多く設ける。</p> <p>○ネームプレートを黒板に貼ることで意思表示をし、自分の考えを理由をつけて発表する場を設定する。</p>	<p>○朝の活動の時間に、発達段階に合わせて、子ども新聞の活用を組み込む。</p>	<p>○話を聞くことができる児童が増えたが、できていない児童もいる。</p> <p>○話し方名人の話形を使ったり、理由を伝え合うことに焦点を当てたりして、話し合いを活性化できた。</p> <p>○惜陰タイムに、新聞の活用ができた。高学年では、内容を文にまとめることもできた。</p> <p>○ペア活動やグループ活動で自分の考えを述べたり、話し合ったりする活動を多く取り入れることができた。</p> <p>○答えに行き着くまでの途中の考えを図や式、言葉で説明できるようにってきている。</p>	<p>○聞く力を身に付けるために、これまで以上に聞き方名人の掲示等を活用し、常時意識づける。</p> <p>○学年の発達段階に合わせた新聞の活用方法を考える。</p> <p>○ペア学習やグループ活動が効果的だったかどうかの評価をし、どのような場面で効果的であるかを研修していく。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○静かに落ち着いて話を聞き、学習規律を守ろうとする雰囲気がある。</p> <p>○昨年度末の児童アンケートでは、「家庭学習をきちんとしている。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、95パーセントだった。教師が出す宿題には真面目に取り組んでいる児童がほとんどである。</p> <p>●困難な課題に対して、諦めず解決しようとする意欲が低い児童がいる。</p>	<p>○困難な課題に対して、粘り強く取り組むことができる。</p> <p>○学習活動に見通しを持ち、授業のめあてをつかみ、自分の考えをもって、話し合い活動などに参加するし、主体的に学習することができる。</p> <p>○日々の課題学習を正確にしていねいに行い、個々が工夫して自主学習に</p>	<p>○ICTを効果的に活用するとともに、めあてを提示し、「めあて」から「ふり返り」までの授業の流れを大切にしながら分かりやすい授業を行う。</p> <p>○体験活動を取り入れたり、ペア活動やグループ活動を効果的に活用したりして、興味関心を高め、主体的に学習できるようにする。</p> <p>○適切な自主学習ノートの例を紹介しながら、週末等に自主学習を促す。様々な機会を捉えて「家庭学習の手引き」</p>	<p>○異学年交流や幼稚園との交流ができる単元を構成し、主体的に取り組めるようにする。</p>	<p>○ICTを活用する中で、友達の良いところを見習ったり、教わったりする姿が見られた。</p> <p>○年度末の教員アンケートでは、『「めあて」から「振り返り」までの授業の流れを大切にしながら授業を行っている』の質問に肯定的な回答をした教員の割合は100%であった。</p> <p>○異学年交流や幼稚園等との交流ができる単元を構成し、主体的に取り組めるよう工夫できた。</p> <p>○家庭学習の習慣が身につけていない児童が少数だがいる。</p>	<p>○ICTをさらに活用し、視覚的にも理解しやすい授業になるよう、各教科でのタブレットの効果的な活用方法について研修する。</p> <p>○今年度の交流を来年度も継続して取り組んでいく。</p>

●課題に対して主体的に解決しようとする意欲が低い児童が多い。  
 ●自主学習の内容は、個人差が大きく主体的な学習方法が身についているとはいえない。

取り組むことができる。

等の活用を積極的に行う。  
 ○学習規律の定着と共に、共に認め合う学級づくりを行う。

○その学習をする意義指導を必要に応じて行い、目的意識を持って学習できるようにする。

○自主学習の内容が向上している。  
 ○学習規律は、常に指導できた。

○家庭学習の手引きを配付時だけでなく定期的に活用し、児童や保護者に意識付けできるようにする。

### 令和6年度 学力向上ロードマップ

